# シラバス（数学科）【ホームページ・ガイダンス用】

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | 数学理解 | 学年 | 3 | 使用教材 | 教科書 | | |
| | | 必履修の別（必・選必・コース選） | 選必 | | 副教材 | 改訂版リンク<br>数学演習Ⅰ・A＋Ⅱ・B受験編 | 数研出版 |
| 学科 | 普通科 | 単位数 | 3 | | | | |
| 系統科目 | 数学Ⅰ（1年必・3単位）、数学A（1年必・2単位）、数学Ⅱ（2年必・4単位）,数学B（2年必・2単位） | | | | | | |

## 【学習目標】

○ 式と証明・高次方程式，図形と方程式，いろいろな関数及び微分・積分の考えについて理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに，それらを活用する態度を育てる。

○ 数列，ベクトル，統計または数値計算について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し処理できるようにする。

○ 数学I・A，数学Ⅱ・Bで既習した学習内容の中から、共通テストの基本・発展レベルの演習問題を解くことができる。

## 【学習方法のポイント】

○ 授業における疑問点は授業中あるいは授業後に積極的に質問するなど、あやふやなままにしないようにしましょう。
○ 黄金サイクル（「予習」→「授業」→「復習」）の学習スタイルを身につけるようにしましょう。
○ 問題集を活用し、「基礎・基本の定着」を図ります。家庭学習でもしっかり取り組みましょう。
○ 定期テスト・模試を受けっぱなしにせず、解き直しをしましょう。

## 【学習評価と観点】

○ 次の4つの観点に基づき、学習内容のまとまりごとに下記の評価マトリクスにより評価を行い、学年末に5段階の評定に総括します。

| | |
|---|---|
| ①関心・意欲・態度 | 数学的活動を通して、数学の理論や体系に関心をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用しようとする。 |
| ②数学的な見方や考え方 | 数学的活動を通して、数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的にとらえ、論理的に考えるとともに思考の過程を振り返り多面的・発展的に考える。 |
| ③表現・処理 | 事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、よりよく問題を解決する。 |
| ④知識・理解 | 数学における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、知識を身に付けている。 |

| 評価方法／観点 | ① | ② | ③ | ④ | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 学習状況観察 | ◎ | ― | ― | ― | 自己評価の実施 |
| ノート・ワークシート | ◎ | ○ | ○ | ○ | 訂正ノートを含む |
| 日々課題・週末課題等 | ○ | ◎ | ○ | ― | 長期休業中の課題を含む |
| 単元テスト等 | ― | ○ | ◎ | ◎ | 設末テスト、章末テストを実施 |
| 定期考査 | ― | ○ | ◎ | ◎ | 中間・期末（1，2学期）、学年末（3学期） |

※表中の◎は観点の中でより重視するところです。

○ 学習の記録簿を活用しすることで、自らの学習状況をチェックし、目標達成に努めましょう。

## 【定期テスト範囲（目安）】※追加・変更することもある。

| | | | 教科書（単元） | 備　考 |
|---|---|---|---|---|
| 学期 | 1学期 | 中間 | 数ⅠAの総復習 | |
| | | 期末 | 数ⅠA、数Ⅱ・Bの既習内容 | ※進路別で内容の変更あり |
| | 2学期 | 中間 | 数ⅠA、数Ⅱ・Bの既習内容 | ※進路別で内容の変更あり |
| | | 期末 | 数ⅠA、数Ⅱ・Bの既習内容 | ※進路別で内容の変更あり |
| | 3学期 | 学年末 | | |

## 【学習サポート】

○ 随時、学習相談を実施しているので、理解できない箇所があれば、早めに解決しましょう。
○ 進路を踏まえた学習相談にも個別に対応するので、積極的に活用しましょう。
○ 難しい問題に直面しても諦めず、粘り強く頑張ろう。粘りの底力こそ最高の支えとなります。